

導入事例 Case study

町田駅前うちやま消化器内視鏡クリニック様

J-MAC
SYSTEM



最新の内視鏡検査装置とAIシステムを導入。
苦痛の少ない検査と大学病院レベルの
内視鏡治療を目指す。

東京都町田市、JR 横浜線町田駅から徒歩3分の商業ビル内の好立地に、2024年11月に開院した「町田駅前うちやま消化器内視鏡クリニック」。大学病院や関連病院等で25年にわたり3万件以上の診療経験と研鑽を積み、苦痛の少ない検査と大学病院と同レベルの高い内視鏡治療を提供しています。開院にあたり、なぜ「Climis」を導入されたのか、内山 勇二郎 院長にお話を伺いました。

内視鏡の先駆性により専門性を高めたいという思い

-- 先生のご経歴、開院の経緯についてお聞かせください。

東京慈恵会医科大学(以下 慈恵医大)卒業後、同大学の内視鏡科に入局し、内視鏡専門医として研鑽を積んできました。2009年から2012年までは、英国ロンドン日本クラブ診療所(NIPPON CLUB CLINIC)に赴任し、所長として在英邦人の内科診療、内視鏡診療、健康管理を行ってきました。帰国後は父が開業していた内山胃腸科に勤務、多くの患者さんの診療を行ってきました。その中で自身の内視鏡専門医としての経験や技術をもっと活かしたいと考え、2024年11月に内視鏡を中心とした消化器内科クリニックを開院しました。

-- 内視鏡専門医を目指した理由についてお聞かせください。

現在は法人も別となっていますが、父が開院した内山胃腸科は当院から1kmほどの場所に位置します。父が消化器外科医ということもあり、医療に触れる機会は幼い



内山 勇二郎 院長

頃からありました。大学進学を考える時期には、工芸などの職人的な仕事に惹かれたこともありましたが、医師にも職人的な要素があると感じて慈恵医大に進学、卒業後は同大学の内視鏡科に入局しました。

内視鏡を専門とした理由ですが、他の大学にはあまりない内視鏡科の医局があり、内視鏡の先駆性に魅力を感じ、より専門性を高めたいという思いがありました。

大学病院と同じレベルの精度の高い内視鏡治療を提供

-- クリニックの特徴についてお聞かせください。

当クリニックは大学病院と同じレベルの精度の高い内視鏡治療を提供することを第一に考えており、慈恵医大から3名ほどの医師が非常勤で診療にあたっています。内視鏡は胃や大腸等の消化管が中心ですが、



クリニック受付

肝臓や膵臓の疾患もあります。専門医が来ていますので治療の相談もできますし、今後は多様な疾患にも対応できればと思っています。

内視鏡の検査においては、装置の画質もかなり向上しており、色々な疾患を見つけやすくなりましたが、医師に求められる検査や診断のスキルや技術は向上していると思います。若い先生の指導もあり、静岡県



リカバリー室

富士市の市立病院に毎週通っていますが、普通に診ていくだけだと見落としのリスクがありますし、一例一例を丁寧に診ることを指導していますし、自身でも心がけています。エルピクセル社の最新のAI内視鏡診断支援システムを導入しているのは、前述の見落としを防ぐということもありますし、大学で同期の炭山和毅教授が同システムの開発に携わっており、検出結果が良いと聞いていたこともあります。自分の目を過信せずAIシステムも通すことで、より見落としを防げると思っています。



内視鏡検査装置

時間をかけずに画像を入れた内視鏡レポートが作れる

--なぜClimisに決めたのか、選定時のポイントや決め手についてお聞かせください。

PACS検討にあたっては、コンサルティング会社の担当に条件を出して紹介してもらいました。1つ目は時間をかけずに画像を入れた内視鏡レポートが作れること、2つ目はクラウド型のシステムでコストメリットが高いことです。これらの条件を踏まえて、幾つかのメーカーに絞って検討をしました。

内視鏡レポートについてはPACS自体にレポート機能が無くても、Word等を利用して作ることもできますが、Climisだと簡単にキー画像を貼り付けたレポートを作成できるので、私の希望とマッチしました。レポートシステムは大きな病院では単独で導入されていますが、クリニックでは専門的な機能は必要ありません。電子カルテやPACSなど、他システムとの連携も必要になり、導入費用も高額

になります。Climisのレポート機能は現機能でも十分ですが、内視鏡用テンプレートなどのカスタマイズができると、より消化器内科には受け入れられると思いますね。

またクラウド型システム

については、電子カルテをクラウド型にしたため、PACSも同じ方が相性も良いのではと判断しました。クラウド型は小型PCのみでサーバーを置く必要がなく、省スペース化がはかれます。メンテナンスもデータセンター側でのアップデートがほとんどのため、クリニック側で行うことはほとんどありません。

また契約更新の必要がなく、サーバーの入れ替えもありませんので、コスト的なメリットもあります。さらにClimisの場合は、保管するデータ容量の制限がないということです。内視鏡装置も超音波装置も高画質になってきていますが、保管容量の制限がないことで気にせず画像を撮ることができます。



電子カルテからの画像連携



超音波検査装置

画像表示のスピードも重いと感じたことはほとんどない

-- 導入されて約1年経ちますが、感想をお聞かせください。

画像表示のスピードも重いと感じたことはほとんどありません。オンプレ型と比較すると確かにローディングが多少時間がかかることはありますが、せいぜい2、3秒位で表示できていますので全く問題ありません。

また診察室では、画像を大きく表示できるようモニターを縦型にして使用していますが、患者さんからの評判も良く、ポリープを取った場合の説明でも画像を見ながら説明できますので、患者さんの理解度や説得力も違うと感じています。



-- 他院との連携でPDIメディア取込や作成はされていますか？

他院からの紹介患者さんも多いので使用しています。画像取り込みやメディア作成はスタッフが行っています。操作も覚えてしまえば特に問題ありません。

何かトラブルがあってもリモートでほとんど解決できる

-- サービスや機能について、要望や改善点があればお聞かせください。

開業時には看護師や事務スタッフも、電子カルテや他システムの操作も含めて覚えなければなりません。できれば1日じっくりとClimisの説明を対面で行ってもらえた方が、クリニック側としてはありがたいと思います。電子カルテメーカーのように、動画マニュアルも用意するとよいかもしれませんね。

機能面では、レポート機能に貼り付けるキー画像上で、矢印やマーク、

文字などの入力ができるようになるのがよいですね。複数のポリープがあった場合に、「→1、→2」というように入れることで、紹介先でも分かりやすくなると思います。

-- 導入、アフターフォロー、保守サポートについてはいかがでしょうか？

当院ではMWMシステムも導入しており、稼働時に幾つかのトラブルもありましたが、カスタマーサポートへの連絡ですぐにリモートで解決できました。何かトラブルがあっても、リモートでほとんど解決できると思いますし、安心感を持っています。

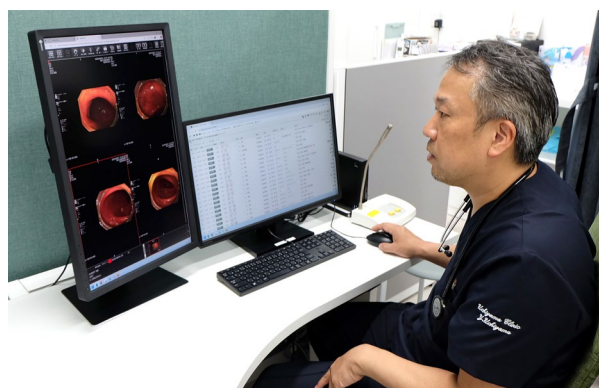
自分の目とAIの両方の診断で患者説明時の説得力がある

-- 医療分野でのAIの活用について、先生のご意見をお聞かせください。

内視鏡分野でもAIの活用が進んでいますが、ジェイマックさんの自社開発も期待していますし、他社のAIシステムとの連携もシームレスにできることを希望します。内視鏡のAIは、検査中に連続した静止画で怪しい部分を検出するシステムですが、自動車の自動運転の補助ブレーキのように、あると安心して検査ができると思います。自分の目で見た診断とAIの診断の両方があると、患者説明時の説得力もありますし、画像の持つ力は大きいと思います。

-- 最後に導入をご検討中の方へ、Climisを薦めるポイントがあればお願いします。

Climisの画像ビューアは操作が簡単ですし、今まで画像ビューアを使ったことがある方であれば直感的に使えると思います。また以前勤務していた病院では、溜まってきた画像をどうするか、更新時に問題となることもありました。その点Climisだと安心できるデータセンターで一括管理されていますし、災害対策という観点でも有効です。機能面でも随時アップデートされますし、コスト的な面でもメリットは大きいと思います。導入して1年ほどですが後悔はありませんし、これからはクラウド化の時代になっていくのではないのでしょうか。



取材協力: 町田駅前うちやま消化器内視鏡クリニック
(2025年7月 取材)